



防衛医大病院広報誌第13号 発行日 令和6年1月発行
 企画・編集 防衛医科大学校病院 患者支援センター
 発行責任者 塩谷 彰浩
 住所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2
 TEL 04-2995-1511(代表)



まもる 防衛医大【護】通信

市民公開講座開催報告

令和5年9月8日(金)に開催しました

防衛医科大学校病院では、地域住民の健康水準向上のため、一般市民対象向けの医療講座、市民公開講座を開催。所沢市広報誌『翔びたつひろば』(令和5年8月号)に案内を掲載。多くの方から申込及び参加をいただきました。大変充実した講座となりました。ご参加ありがとうございました。次回は令和6年2月に計画しております。



●『女性泌尿器科疾患について』
泌尿器科医師 黒田 健司先生



●『難聴と補聴器』
耳鼻咽喉科医師 水足 邦雄先生



社会保険労務士講演会&がんサロン報告

令和5年10月31日(火)に開催しました

下記のテーマについて講演を実施しました。

- 『在職老齢年金の制度改正について』・社会保険労務士 石田周平先生
- 『がんと仕事の両立について』・社会保険労務士 山岸玲子先生



その他、参加者同士による交流を実施いたしました。講師の方、参加者の方、ご参加ありがとうございました。

地域医療連携検討会報告

令和5年11月20日(月)に開催しました

今年度2回目の地域医療連携検討会:テーマ【心不全の最新治療を踏まえた医療連携】を開催しました。

【講演】

- 『心不全 Update~最新の薬物療法と当院の取り組み~』当院循環器内科 准教授 長友祐司先生
- 『心不全に対する非薬物的介入~カテーテル治療と心臓リハビリテーションを中心に~』

所沢ハートセンター循環器部長 江崎裕敬先生

全体討論では模擬症例を通して検討を進めて参りました。大変わかりやすい講演に加え、全体討論でも貴重なご意見を賜り、皆様のご協力に感謝申し上げます。

また、今回、多くの方に会場又は Web にて参加していただき、地域の医療機関の方々と意見交換等をさせていただきました。

全体討論 (心不全症例を通して多職種で検討しよう)



所沢ハートセンター 循環器部長 江崎 裕敬先生 防衛医大病院 循環器内科 准教授 長友 祐司先生 患者支援センター 大洲 康弘 座長

診療科紹介① 上部消化管外科 教授 辻本 広紀

当科では、上部消化管外科領域の高難度手術をはじめ、胸腔鏡・腹腔鏡を用いた低侵襲手術及び外来診療等、経験豊富な指導医のもと、一致団結し、他職種のスタッフとも密接な連携を取りながら患者様に最良の医療を提供するために日々努力しております。治療方針に関しては、ガイドラインに準拠した標準治療を基本とし、個々の患者様のもつ様々な背景を考慮し、薬剤師、看護師等のコメディカルを含めた多職種カンファレンスを行い、満足度の高い治療を提供できるよう心がけております。取り扱う疾患の大部分が悪性腫瘍であり、がんの進行度および患者様の体力に見合った治療法を、患者様やご家族に納得のいくまで時間をかけて説明し、共に選択しております。早期のがんでは治療後の機能温存、QOLを考慮し内視鏡治療・胸腔鏡・腹腔鏡手術や、機能温存手術を選択しております。進行がんでは、手術のほかに化学療法、放射線治療、緩和治療など、集学的治療を各専門科と連携をとりつつ行っており、がんの再発防止に全力を尽くしております。なお、放射線治療に関しては当院の放射線治療装置(リニアック)の換装のため、現在受け入れを停止しており、連携している他院を紹介させて頂いております。また、令和6年度より低侵襲手術支援ロボット「da Vinci Xi」が導入されることから、当科でも食道癌、胃癌手術への導入を予定しております。

昨年5月8日より新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」になり、コロナ流行時と比較して、ご紹介いただく患者さんも増えてきております。引き続き、ご紹介頂いた患者様に安心、安全な医療を適切に提供できるよう努め、一生懸命精進して参ります。このような体制を維持できるのは、ひとえに近隣御施設の先生からのご支援のお陰であります。この場をお借りし、深く感謝申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

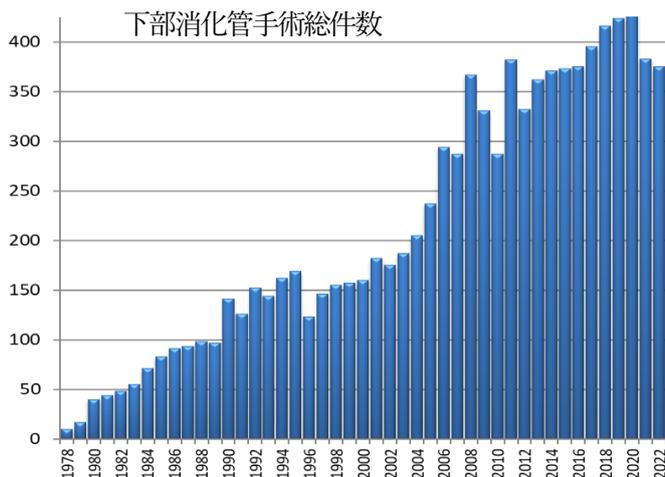


診療科紹介② 下部消化管外科 講師 岡本 耕一

防衛医科大学校病院 下部消化管外科は、2016年4月から外科1部門長の上野秀樹教授が科長を務め、スタッフは梶原由規准教授、岡本耕一講師、山寺勝人助教の4名で診療にあたっています。

下部消化管外科の病床数は東9階の24床で、定時手術は半日枠を週6～7枠で実施し、早急に手術加療を要する患者さんに対しては緊急手術で対応しています。また、効率的な周術期管理と合併症予防策により術前・術後の在院日数の短縮化を図り、より多くの患者さんに対応できる診療を実施しています。

1977年の開設以降、手術総数は年々増加傾向にあるものの、COVID-19の流行や手術枠の制約のため、近年は増加できず、初回大腸癌手術は年間240～250件程度で推移しています。この手術件数は、様々な併存疾患を抱え術後合併症の発生リスクの高い患者さんや高齢の患者さんを数多く手術する大学病院の中では全国トップレベルで、癌の根治性のみでなく、機能温存や安全性とのバランスのとれた手術を目指し、その患者さんに最適な個別化医療を実施しています。また、緊急手術に関しては増加傾向で、全ての下部消化管手術件数はCOVID-19の流行による手術制限が及んだ2020年までは増加傾向で年間400件程度でした。地域の多くの医療機関からのご紹介のおかげをもちまして、2022年末の時点で病院開設時からの下部消化管外科手術総数は9,553件、初回大腸癌手術総数は7,358件となりました。



当科の診療内容としては、大腸癌をはじめとする悪性疾患および、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）や大腸腺腫などの良性疾患の外科治療を行っており、消化管穿孔や腸閉塞などの急性腹症に対する緊急手術も積極的に受け入れ、集学的治療を行っています。手術方法に関しては、患者さんへの侵襲の軽減、早期回復、美容面に関してメリットのある腹腔鏡手術を積極的に行い、全ての腹腔鏡手術において内視鏡外科学会 技術認定医が手術を実施しています。また、令和6年度からはロボット手術を

導入し、低侵襲手術を益々増加させる予定です。さらに、他科・他院と密接に連携しながら、術前・術後の補助療法や再発症例に対する重粒子線を含めた各種 modality を積極的に活用した集学的治療により、大腸癌の予後改善に努めています。

大学病院の使命である研究にも力を入れ、ご紹介いただいた貴重な患者さんから得られたデータを解析し、多施設共同臨床研究などのエビデンスレベルの高い研究結果の発信とこれらを治療へ応用しています。また、本邦の大腸癌診療の基準となる「大腸癌取扱い規約」および「大腸癌治療ガイドライン」の次期改訂作業にも関わっています。

今後も、当科は地域の下部消化管疾患の治療に貢献すると共に、本邦はもとより世界の大腸癌診療の牽引役となれるよう精進いたします。今まで同様、お力添えを宜しくお願いいたします。

下部消化管外科 外来担当表					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
担当医	上野秀樹	岡本耕一	梶原由規	休診	山寺勝人
	田代恵太	曾田悠葵	田代真優		川内隆幸
	菊家健太	廣瀬裕一	大塚泰弘		相原一紀

病院理念

高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、優れた自衛隊医官・看護官等を育成する

基本方針

- 1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
- 2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
- 3 高度で先進的な医療を提供する
- 4 地域の中核として救急医療を実践する
- 5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
- 6 災害対処能力の向上に努める
- 7 使命感をもち、優れた臨床能力を有する医官・看護官等を育成し、自衛隊医療に貢献する

【初診予約についてお願い】※右のQRコードを読み取り、「初診予約受付のご案内」を参照ください。

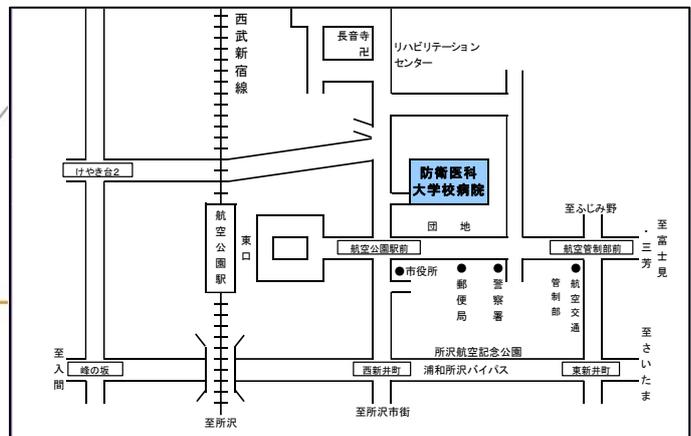


当院の精神科、感染症・呼吸器内科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科(泌尿器科一般・尿路腫瘍)、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁(男性)】、消化器内科特殊外来(脂肪肝炎)の初診外来は完全紹介予約制とさせて頂いております。

***現在、血液内科は初診予約を受付けておりません。**

上記診療科初診希望の患者さんを紹介頂く場合は、医療機関の皆様から当院地域医療連携センターへFAXにて初診予約をお願い致します。患者さんからの予約は受付しておりません。ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。

アクセス(交通のご案内)



●電車でお越しの方

西武新宿線『航空公園駅』下車徒歩5分

●車でお越しの方

浦和所沢バイパス「西新井町」交差点を右折し約600m



地域医療連携センター
初診予約、緊急入院・受診、
セカンドオピニオン、病状照会等

TEL:04-2995-1511

内線 3043・3887

患者支援センター
転院・退院調整、在宅調整、医療福祉相談、
がん患者相談、脳卒中相談等

TEL:04-2995-1511

内線 6123~6126